

平成26年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年2月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,380億円余
2. 前年同月比	5.4% (店舗数調整後/6か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭5.8%(91.5%) : 非店頭1.0%(8.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成25年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	875,557㎡ (前年同月比:-4.7%)
6. 総従業員数	18,975人 (前年同月比:1.2%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 4.4%、7-9月 2.3%、8-10月 3.3%、 9-11月 2.9%、10-12月 3.0%、11-1月 4.2%

[参考] 平成25年1月の売上高増減率は0.5% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

- (1) 東京地区の1月の入店状況は、好天に恵まれたこともあり、2%程度の増加と好調に推移した。
- (2) 今年の初商と冬のクリアランスセールは、概ね前年を上回る水準で好調に推移し、中には2日と3日の初売りが過去最高を記録する店もあった。
- (3) 主力の衣料品 (+4.7%) については、全国的な傾向以上にプロパー品 (正価商材) の好調が目立った。具体的には、紳士・婦人共にコート、ジャケット等の重衣料や、フォーマルウェアなどがよく動いた。また、紳士では消費税率引上げ前の駆け込み需要もあって、スーツやイーザーオーダーの受注が大きな伸びを示した。
- (4) 高額品については、依然として、ラグジュアリーブランド (身のまわり品:+8.3%) や高級時計 (美術・宝飾・貴金属:+31.6%) などを中心に、呉服や高級寝具 (その他衣料品+15.7%)、あるいは高級家具 (+10.0%) なども含めて活況が続いている。
- (5) 東京地区の2月中間段階 (2月16日まで) の商況は、バレンタイン商戦の活況などプラス要素があるものの、2週連続の週末大雪の影響もあって、前年を3%程度下回る水準で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.1日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 10店、②変化なし: 4店、③減少した: 4店
- (3) 1月歳時記 (初売り、冬的全館セール、成人の日) の売上 (同上/有効回答数18店舗)
①増加した: 8店、②変化なし: 8店、③減少した: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年01月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
総 額	138,060,807	100.0	5.4 (4.8)
紳士服・洋品	13,827,687	10.0	5.5 (5.2)
婦人服・洋品	34,200,769	24.8	3.8 (3.1)
子供服・洋品	2,636,595	1.9	-0.5 (-0.6)
その他衣料品	3,289,129	2.4	15.7 (15.4)
衣 料 品	53,954,180	39.1	4.7 (4.1)
身のまわり品	19,716,245	14.3	8.3 (7.9)
化粧品	6,849,011	5.0	13.4 (13.2)
美術・宝飾・貴金属	7,851,499	5.7	31.6 (31.3)
その他雑貨	6,289,365	4.6	-0.5 (-0.6)
雑 貨	20,989,875	15.2	14.5 (14.3)
家 具	1,972,758	1.4	10.0 (6.6)
家 電	671,637	0.5	-13.6
その他家庭用品	4,884,840	3.5	9.7 (9.6)
家 庭 用 品	7,529,235	5.5	7.2 (6.2)
生 鮮 食 品	4,570,308	3.3	-1.9 (-2.5)
菓 子	7,697,945	5.6	0.8 (-0.2)
惣 菜	6,533,684	4.7	-1.7 (-2.4)
その他食料品	8,810,595	6.4	-4.0 (-4.4)
食 料 品	27,612,532	20.0	-1.8 (-2.5)
食 堂 喫 茶	3,181,771	2.3	2.0 (1.3)
サ ー ビ ス	2,171,015	1.6	10.9
そ の 他	2,905,954	2.1	7.3 (2.3)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)
※

商 品 券	2,112,955 千円	-8.0 (-8.5)
従 業 員 数	18,975 人	1.2
店 舗 面 積	875,557 m ²	-4.7

営 業 日 数	30.1 日	前年	30.1 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が11か月連続、身のまわり品が6か月連続、衣料品と家庭用品が3か月連続のプラス。食料品が4か月連続のマイナスと、11月から3か月連続で同様の動きとなった。また、化粧品が18か月連続、美術・宝飾・貴金属が13か月連続、紳士服・洋品が6か月連続、婦人服・洋品、その他衣料品、家具が3か月連続、その他家庭用品、菓子が2か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	5.4	—	6か月連続プラス
紳士服・洋品	5.5	0.6	6か月連続プラス
婦人服・洋品	3.8	0.9	3か月連続プラス
子供服・洋品	-0.5	0.0	4か月連続マイナス
その他衣料品	15.7	0.3	3か月連続プラス
衣料品	4.7	1.8	3か月連続プラス
身のまわり品	8.3	1.1	6か月連続プラス
化粧品	13.4	0.6	18か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	31.6	1.4	13か月連続プラス*
その他雑貨	-0.5	0.0	3か月ぶりマイナス*
雑貨	14.5	2.0	11か月連続プラス
家具	10.0	0.1	3か月連続プラス
家電	-13.6	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	9.7	0.3	2か月連続プラス
家庭用品	7.2	0.4	3か月連続プラス
生鮮食品	-1.9	-0.1	6か月ぶりマイナス
菓子	0.8	0.0	2か月連続プラス*
惣菜	-1.7	-0.1	5か月連続マイナス*
その他食料品	-4.0	-0.3	4か月連続マイナス*
食料品	-1.8	-0.4	4か月連続マイナス
食堂喫茶	2.0	0.0	3か月連続プラス
サービス	10.9	0.2	2か月連続プラス
その他	7.3	0.2	2か月ぶりプラス
商品券	-8.0	-0.1	33か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>